防衛医大病院広報誌　第15号　２０２４年９月発行
企画・編集　防衛医科大学校病院　患者支援センター
発行責任者　塩谷　彰浩
住　所　〒359-8513　埼玉県所沢市並木3-2
ＴＥＬ　04-2995-1511（代表）

防衛医大【護（まもる）】通信

地域医療連携検討会報告　R6年6月25日（火）に開催しました

今回のテーマは、【大腸がんの最新治療】でした。

梶原 由規 先生

【講演】
『大腸がんの最新治療～早期大腸癌の治療戦略について～』
当院 下部消化管外科 准教授 梶原 由規 先生

当科では日本人の臨床研究データに基づいて作成されている本邦の大腸癌治療ガイドラインの治療方針を遵守しつつ、個々の患者さんの病理組織所見を詳細に評価することでそれぞれの個人に応じた最適な治療方針を提示することを試みています。

また、近年では治療方針の決定は、これまでの説明が主体のインフォームド・コンセントからシェアード・ディシジョン・メイキング＝共同意思決定（医療従事者と患者さんが共同して治療法の決定を行うこと、患者さん自身の価値観をより重視するもの）へと変化してきています。選択可能な治療法について効果とリスクを説明した上で、患者さんと相談して方針を決定しています。

Take Home Message

☑ 大腸癌治療ガイドラインについて

⇒ 本邦のガイドラインは日本のデータに基づき、これまでのエビデンスを積み重ねて本邦の診療に最適化するよう作成されています。
まだ改善すべき点もあり、常に新たな指針の形成を目指しています。

☑ T1大腸癌の治療方針について

⇒ 現行のガイドラインの推奨が妥当であることが示されています。
今後のデータ蓄積により、新たな治療方針が作成される可能性がありますが、
それまでは安易なガイドラインの推奨からの逸脱は慎むべきです。

『ストーマケアの現状と課題』
当院 看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 田辺 亜伊香先生

田辺 亜伊香 先生

田辺看護師からは、ストーマ装具交換等について症例を通した講演でした。ストーマケアは、QOLに直結する日々のケアでありオストメイトの悩みはつきない為、医療従事者が協力してケア方法を模索していく必要がある事、最善のケアを検討出来るよう知識・技術の取得に努める必要がある事など熱い思いを感じる講演でした。

【病院紹介】
所沢美原総合病院：院長 鈴木昭一郎先生に
ご紹介を頂きました。

鈴木昭一郎 院長

教　授　就　任　挨　拶①　整形外科　教授　堀内 圭輔

令和６年４月１日付にて、整形外科学講座教授を拝命いたしました堀内圭輔です。私は 2017 年４月、慶應義塾大学から異動になりましたので、防衛医科大学校での勤務は 8 年目を迎えます。出身も育ちも東京（杉並区）ですが、現在は半所沢市民となりました。

防衛医科大学校整形外科は、埼玉西地区の整形外科の基幹施設として重要な機能を担っており、周辺地域から多くの患者を紹介していただいています。また、訓練等で怪我をされた自衛官や、救急部に搬送された多発外傷の患者にも多く対応しています。昨年の実績ですと、新患が 1361 人、手術件数は 440 件となっています。整形外科の診療は、上肢、下肢、脊椎、腫瘍に大別できますが、近年いずれの分野も専門性が極めて高くなってきています。このため、全ての疾患には対応できない大学病院も散見されますが、防衛医科大学校整形外科学講座では病院開設以来、全ての分野の運動器疾患の治療を行うことを前提に診療活動を行っています。

現在、整形外科は私を含め９人の指導医クラスのスタッフと、15 名の専修医、５名の研究科学生から構成されています。スタッフの９人のうち、上肢の専門医が２名、下肢が３名、脊椎が２名、腫瘍が 2 名です。いずれのスタッフも経験豊富であり、全国的にみても高いレベルの医療を提供しています。また同時に、優れた人間性を有し、他診療科医師、看護師、医療関係者とも良好な人間関係が常に維持できていることも本講座の特長と自負しております。整形外科で対象とする疾患は、靭帯損傷などのスポーツ外傷から、交通事故や飛び降りで生じた重度外傷、高齢者に多い変形性膝関節症や脊椎変性疾患、頻度は低いものの高い専門性が求められる悪性骨軟部腫瘍など、とても多岐にわたっています。また最近では、がん骨転移の患者も増えており、他診療科と連携しつつ、積極的に治療に当たっています。さらに、大学校病院の一講座として、医学生・看護学生、研修医、専修医に対する教育を通して、整形外科学・運動器学の学問的「面白さ」を広く伝えるとともに、運動器の基礎研究・臨床研究・学会発表にも力を入れています。

整形外科学・運動器学は超高齢社会を迎えたわが国における健康寿命延伸の要となる分野であり、また防衛衛生という観点からも、極めて重要性が高いといえます。地域の患者、医療機関から頼られ、また他の診療科からも信頼される講座となるよう、スタッフ一同、精進いたす所存であります。何卒よろしくお願いいたします。

～令和６年６月
　朝のカンファレンスにて～
前列、左より、須佐美知郎准教授、堀内圭輔教授、尼子雅敏教授（リハビリ部）、北村和也講師

教　授　就　任　挨　拶 ②　精神科　教授　戸田 裕之

令和 6 年 4 月 1 日付で、精神科学講座の教授を拝命しました、戸田裕之（とだひろゆき）と申します。防衛医科大学校の 21 期生です。2000 年に防衛医科大学校を卒業後、防衛医大病院での研修、札幌の部隊、自衛隊札幌病院、北海道大学病院での勤務を経て、2011 年 8 月に当講座の助教として赴任して現在に至ります。大阪府堺市の出身です。当講座は辰沼利彦初代教授のもとで 1976 年 5 月に開設され、1992 年に一ノ渡尚道先生が第 2 代教授、1997 年に野村總一郎先生が第 3 代教授、2013 年に吉野相英先生が第 4 代教授にご就任されており、私は第 5 代教授になります。

当院精神科は、気分障害、統合失調症、ストレス関連障害、てんかん、児童思春期の患者さんなど、精神疾患全領域に渡り幅広く診療を行っています。コンサルテーション・リエゾン活動にも力を入れており、精神科以外の診療科に入院した、精神疾患の既往がある患者さん、新規に、せん妄、不安や抑うつなどを生じた患者さんの評価・治療を行っています。年間の入院リエゾン対応患者数は 300 人を超えます。特に、救急救命センターなどに入院した患者さんの対応のために、毎週、当院の救急部と合同カンファレンスを実施しています。また、特定妊婦など精神疾患を併発した患者さんを多数受け入れている当院産婦人科と連携を取って、周産期メンタルヘルスにも力を入れています。重度のうつ状態、治療抵抗性の統合失調症、緊張病などの治療のために、修正型電気けいれん療法も積極的に行っており、年間約 200 件実施しています。緩和ケアチーム、Child Protection Team、臨床倫理コンサルテーションチームの一員としても活動しており、病院の臨床の精神科領域の様々なニーズに応えられるよう頑張っています。

当院精神科は、研究科学生も含めると、精神保健指定医・精神神経学会指導医・専門医 5 名が在籍しています。ただ、助教以上の精神科医のスタッフは私も含めて 3 名と、以前と比べると、人員面で不足していることは否めません。そのため、例えば、CPMS 登録医療機関となってはいますが、クロザピン投与のための新規の患者さんのご紹介を受け入れることは難しい状況です。今後、人員の充足に努め、今まで以上に地域の精神科医療のニーズに応えられるよう、医局員一同、一致団結して精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、
優れた自衛隊医官・看護官等を育成する

基本方針

1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
3 高度で先進的な医療を提供する
4 地域の中核として救急医療を実践する
5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
6 災害対処能力の向上に努める
7 自らの使命感を自覚し、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自衛隊の多様な任務にも対応しうる医官・看護官等を育成する

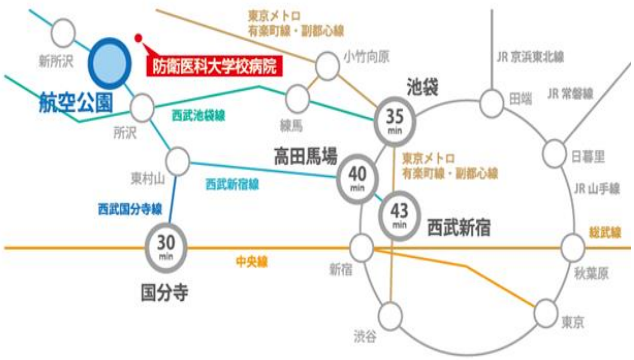
【初診予約についてお願い】

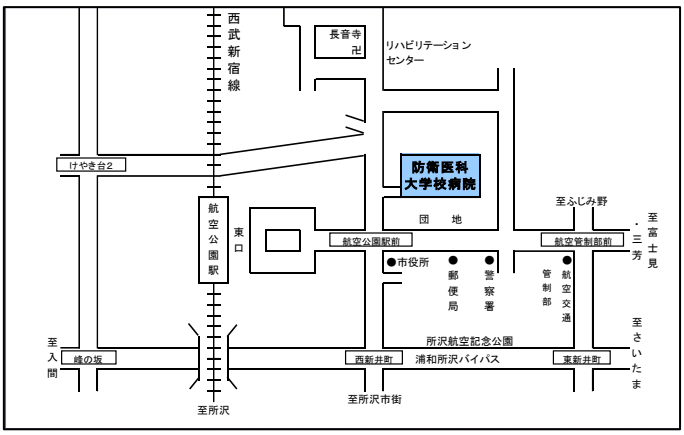
※右のQRｺｰﾄﾞを読み取り「初診予約受付のご案内」を参照ください。

当院の精神科、感染症・呼吸器内科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科（泌尿器科一般・尿路腫瘍）、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁（男性）】、消化器内科特殊外来（脂肪肝炎）の初診外来は完全紹介予約制とさせて頂いております。

上記診療科初診希望の患者さんを紹介頂く場合は、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへFAXにて初診予約をお願い致します。患者さんからの予約は受付しておりません。ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

アクセス(交通のご案内)





医　療　連　携　の　連　絡　先

地域医療連携センター
初診予約、緊急入院・受診、
セカンドオピニオン、病状紹介等
ＴＥＬ：04-2995-1511　内線 3043・3882

患者支援センター
退院調整、在宅調整、医療福祉相談、
がん患者相談、脳卒中相談等
ＴＥＬ：04-2995-1511　内線 6123～6126